

ジャパンダートダービー（G1） 優勝 キヤッスルトップ号

城市 公さん 生産

7月14日、東京の大井競馬場で開催された「ジャパンダートダービー」（ダート2000m）で豊畑地区の城市公さん生産のキヤッスルトップ号（牡3歳、父バンブーエール、母ジーガートップラン）が3歳ダート王決定戦を制しました。

キヤッスルトップ号は家族3人で営む牧場出身で地方競馬の船橋競馬場所属であり重賞初挑戦となります。前戦まで3連勝しての本レースで、外枠スタートながらハナをとり、見事なペース配分で逃げ、最後の直線では後続馬が迫るもアタマ差で逃げ切り、並み居る日本中央競馬所属馬を抑えての重賞初挑戦で初優勝という快挙を達成することが出来ました。おめでとうございます。

勝ちタイム（2分5秒9）



今年のお米の出来はどうでしょう

稲作振興会会長 村田信治さんにお話を聞いてきました

8月5日、今年のお米の状況を聞きに稲作振興会会長 村田信治さんの所にお伺いしました。

「今年の水稲の生育は順調であり、例年9月中旬に稲刈りを行っています。今年も9月上旬にも刈り取りを行えそうです。今は落水をいつにするか考えているところで、ここ最近気温の高い日が続いており、米が割れたり、白濁してしまい、品質が低下してしまふことを危惧しています。」とのこと。なお、北海道農政部からも高温下における水稲の管理ポイントとして、かんがい水のかけ流しや、落水後の土壌の過乾燥を防止するためには走り水を行うなど指導があります。

また村田さんはミニトマトも栽培しており、今年は単価こそ昨年より高いが、4月作付け分については実が大きくなる前に色がついてしまい、全体的に小玉なので、それが収量減に繋がっているとのこと。選果場での7月末の出荷量は487tと前年対比10t減、販売額は約3億1300万円と前年対比200万円の増加となっております。



実が入り色づいてきております。